

骨髄異形成症候群と多発性骨髄腫について

城山病院 血液内科 部長 川田修平医師

どちらも高齢者に多い血液細胞異常の病気です。「貧血かも」「腰や背中の痛みが続く」などの自覚症状から内科や整形外科を受診し、発見につながる場合もあります。「適切な治療を行うためにも、早期発見が何より重要です」と言う川田医師に話を聞きました。



医学博士
日本内科学会認定内科医
日本血液学会認定血液専門医

骨髄形成症候群とは

血液中の酸素を体中に運ぶ赤血球、感染防御を担う白血球、止血にかかわる血小板のすべては「造血幹細胞」という細胞から生まれます。それは骨の中の骨髄の中で分化し、血液細胞が成熟した後、送り出されますが、この造血幹細胞に異常が起き、正常な血液が作られなくなる疾患が骨髄異形成症候群です。発症率は10万人に3〜5人ですが、発症平均年齢中央値である70代では20人と急増します。

原因は加齢や放射線を多量に浴びたことで造血幹細胞の遺伝子に傷がついたためと考えられ、発症者の20%は白血病になるというデータもあります。初期症状は貧血です。ふらつきたり、動悸、息切れ、倦怠感、さらに進むとむくみがひどくなり、しかし、症状は徐々に進行するため、自分では気が付かず久しぶりに会った人に顔色が悪いことを指摘されて検査を受けて、発見されることもあります。また、貧血は胃潰瘍や胃がんなど消化器からの出血が原因で起こる場合もあるため、消化器内科で調べて異

常がなければ血液内科の受診をお勧めします。検査は骨髄を調べることで判ります。

多発性骨髄腫とは

血液のがんの一種です。血液細胞の中のリンパ球は、体内に入ってきた細菌やウイルスなどの異物を見つけると「形質細胞」に変化し、抗体を放出してそれらを攻撃し、形質細胞の一部は骨髄で待機します。多発性骨髄腫はこの形質細胞が放射能や化学薬品などの原因で異常を起す病気です。

異常な形質細胞(骨髄腫細胞)は、細菌など異物を攻撃する能力を持たない抗体(M蛋白)のみを大量に作り出します。また、通常は1%程度の骨髄中の形質細胞がどんどん増加して骨髄内を埋め尽くし、正常な血液細胞が作られず、貧血や感染症、出血が起きやすくなります。また、骨の新陳代謝にも影響するので、骨がもろくなり、骨折や背中・腰の痛みが現れます。腰痛や背中の中の痛みで通っていた整形外科の先生が「おかしい」と思われ、血液内科を受診するよう勧められたおかげで、病気が判明することも多く

多発性骨髄腫の検査と治療

検査は血液検査や尿検査、X線検査に加えて、骨髄内の骨髄液を穿刺して採取し検査します。

治療での完治は難しく、その人の年齢などを考えて化学療法や放射線療法を選択します。若い人には健康な造血幹細胞の移植や、異常な形成細胞を徹底して排除する自家移植を行うこともあります。

しかし、治療にはそれぞれリスクがあり、それがもとで身体状態が逆に悪化すると元も子もありません。それよりも、緩やかに進行する病気と向き合い、生活の質(QOL)を保つことが大切です。そのためにはまず早期発見!不安な方はぜひ血液内科を受診してください。

※QOL: Quality Of Lifeの略で「生活の質」や「生きることの質」とも訳される